様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 10 日現在

機関番号：３７５０３
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2010～2012
課題番号：２２４０１０１４
研究課題名（和文）東南アジアにおける国境管理と人の「移動圏」―マレー半島縦貫陸路国境を事例として
研究課題名（英文）Border Management and the “Range of Migration” of People in Southeast Asia: The Case of Land Borders in the Malay Peninsular
研究代表者
石井 由香（ISHII YUKA）
立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・教授
研究者番号：20319487

研究成果の概要（和文）：
本研究は、マレー半島のシンガポール、マレーシア、タイの陸の国境管理に関し、対象３か国の陸の国境管理政策と国境管理の実態およびその社会経済的影響、越境移動の主なルートである国境を越える道路網の開発・運用、人の移動ルートおよび「移動圏」の形成とその国境管理との関連について考察した。グローバル、リージョナル、ナショナル、ローカルという重層的なアクターとの関係に留意しながら、歴史的推移を踏まえた分析を行った。

研究成果の概要（英文）：
The research aims to consider the land border management of Singapore, Malaysia and Thailand in the Malay Peninsular. There are three main research points: the border management policies and the border management practices of the three countries and their socio-economic impact, the development and management of international highways and roads as infrastructure of migration, and the migration routes and the formation of “range of migration” and their impacts on land border management. The analysis was conducted in relation to the global, regional, national and local actors and the historical changes.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	1,500,000	450,000	1,950,000
２０１１年度	1,500,000	450,000	1,950,000
２０１２年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総　計	4,000,000	1,200,000	5,200,000

研究分野：人文学Ｄ
科研費の分科・細目：地域研究
キーワード：社会学・東洋史・国境・道路網・移民・国際研究者交流・マレーシア：タイ：シンガポール

１．研究開始当初の背景

グローバリゼーション研究、移民研究において、国境管理は近年注目されるテーマである。発展途上国にとって国境管理は自国の国家建設および国家統一と関わる重要な問題であり、中央政府は国家の威信を確立し維持するためにも、自国の経済開発を進めつつ、国境管理をできる限り忠実に行おうとしてきた。その一方で、植民地経験を持つ国家の国境線の多くは独自の歴史や文化分布と相違して設定されており、国境管理は多様な民族の多様な移動のケースを想定したものになっている。ローカルレベルの住民の移動状況が反映されているのである。

また、これまで国家の専権事項とされてきた移民受入政策および国境管理政策は、グローバリゼーションの時代における地域主義や地域化の進展による影響を受け始めている。越境する地域としてのまとまり、アイデンティティの形成と国境管理との関係が問われているのである。Saskia Sassen の著書 *Globalization and Its Discontents* (1999) に見られるグローバルな経済システムや超国家組織との関係における「移民受入政策の事実上の超国家化」という指摘や、Xiangming Chen が著書 *As Borders Bend* (2005)において述べる、アジア太平洋地域において、成長の三角地帯などの国境を越えるサブリージョンないしは地域化の進展が国境の壁を低くし、新たなトランスナショナル・スペースを作りだしているといった指摘は、東南アジア地域の状況を考える場合にも重要である。

国境管理は国家の意図のみを反映して行われるわけではない。国境に関わる複数のアクターの行為を反映して国境管理政策は策定され、運用される。その発展途上国、アジアにおける論理を探る上では、どのアクターの行為、意思が反映した内容となっているのか、歴史的推移も踏まえて注意深く観察・分析を行う必要がある。ただしその一方で、「国境」管理政策は、あくまでの「国家間の境」を管理しようとする政策であり、この点で国家の果たす役割は、少なくとも東南アジアでは依然として大きいものがある。グローバリゼーションの時代と呼ばれる現代においても、国家を軸としながら、国家以外のアクターとの関係における動態的な実体として、国境管理の動向をとらえていくことが必要であろう。

しかし、国家建設および経済開発と国境管理に関する研究、国境管理と地域主義、地域化に関する研究、および国境管理をめぐる複数のアクター間の関係についての実証的な研究は、少なくとも東南アジアに関してはほとんどみられなかった。特定の国境周辺地域における国境を越える人の移動状況に関する研究は存在した（たとえば、*Asia Pacific Viewpoint* 誌の第 47 巻第２号（2006 年）における特集 ”Re-mapping the ‘Growth Triangle’ ”や第 50 巻第１号（2009 年）における特集 ”Border Crossings in the Asia Pacific ”を参照）が、こうした研究は、国境近接地域およびサブリージョンの局所的な個別の実証研究にとどまっていた。

２．研究の目的

本研究の目的は、１．の研究の背景を踏まえ、発展途上国の国境管理政策と国境管理の実態、国境管理政策と国境管理の実態の背景要因、社会経済的影響について、東南アジア、そのなかでもマレー半島におけるシンガポール、マレーシア、タイの陸の国境管理を事例として総合的に考察することである。

経済開発政策の進展、地域主義やサブリージョン形成の進展に伴い、国境管理の論理、また国境の意味が大きく変わりつつある。この点については、歴史的推移を踏まえて論じなければならない。しかも、国境の持つ意味をとらえるには、グローバル、リージョナル、ナショナル、ローカルといった重層的な複数のアクターの営みを同時に分析する必要がある。

本研究では、東南アジアという地域概念および地域主義とサブリージョンにも留意しつつ、将来的な国境を越える人の移動の自由化の可能性とその影響力を考える上での前提条件として、マレーシアという一つの国家を中心におき、対象３か国の陸の国境管理政策と国境管理の実態、国境を越える道路網の開発・運用、人の移動ルートおよび「移動圏」の形成と国境管理との関連について調査・分析し、明らかにすることを目指した。

本研究は、人の移動の合法／非合法の線引きに関するコンセンサスの、東南アジア固有の政治、経済、社会的コンテクストを理解する上での基礎作業として位置づけられる。また、陸続きの国家間の関係を考える上で、シンガポール、マレーシア、タイ（南部）を一つの単位としてとらえ、分析することは、将来的に他の ASEAN 諸国間の国境管理上の関係分析や、EU や NAFTA などの他地域の国境管理との比較を可能にする枠組みづくりへの試みの一部ともなると考えている。

なお、この３カ国は、東南アジアのなかでも特に経済発展が著しい国々であり、国境管理の論理も経済開発の進展に伴い大きく変容している。グローバリゼーションの影響を大きく受けている国々であるともいえる。重層的なアクター間の関係を考える上で、示唆を与え得る事例であるということができよう。

３．研究の方法

（１）文献調査

既存の研究文献の収集分析を行うことで、国境および国境管理をめぐる研究動向を整理した。また、現地の政策・統計資料収集を行うことにより、各国家による国境管理をめぐる政策の意図、国境管理に影響を与える要因を明らかにしようと試みた。さらに、現地で発行された新聞記事の収集分析により、国境管理政策の歴史的変遷、各アクターの動向を把握した。文献資料の収集においては、国内図書館、インターネットの他、現地において大学図書館、国立図書館、国立公文書館などを利用した。

（２）現地調査

シンガポール、マレーシア、タイにおいて、現地フィールドワーク、インタビュー調査を実施した。調査対象となった国境地域は、①マレー半島西海岸のマレーシア‐タイ国境、②マレー半島東海岸のマレーシア‐タイ国境、③マレーシア‐シンガポール国境、である。このそれぞれの地域および移動の拠点都市（ハジャイ、ペナン、コタ・バル、ジョホール・バル）において、政策関連資料、文献資料の収集に加えて、国境チェックポイントでのフィールドワーク、インタビュー、長距離バス・タクシー企業の動向に関する資料収集、フィールドワークとインタビュー、関係者へのインタビューを実施し、分析データとした。さらに、クアラ・ルンプル、シンガポールにおいても関連事項についての資料の収集、フィールドワークとインタビューを実施した。このことにより、特に人の移動ルートおよび「移動圏」に関するデータを入手することをめざした。

なお、マレーシア‐タイ国境における調査では、タイ深南部で生じている紛争の影響が懸念されたため、本研究における調査では、治安に大きな問題のないマレー半島西海岸国境地域を中心とし、東海岸国境地域については、マレーシア側のみの調査とした。現地政治状況に基づくやむを得ない判断であった。このため、タイおよびタイ側の国境地域の状況に関しては、限定的な分析・考察となっている。

４．研究成果

主な研究成果としては、次の三点があげられる。

（１）マレーシア、シンガポール、タイの国境管理政策および陸路国境管理の歴史的推移の分析とその社会経済的影響に関する考察

国境管理政策および陸路国境管理の歴史的推移について、マレーシア‐シンガポール国境、マレーシア‐タイ国境のそれぞれについて整理・考察を行った。これにより、政策の政治・経済的背景として、植民地からの独立（マレーシア、シンガポール）、国家建設に伴う国民形成への中央政府による意図、経済開発政策の策定と実施が、国境管理に大きな影響を与えていることが浮き彫りとなった。

また、マレーシア、シンガポール、タイの国境管理に影響を与えるアクターは、時代を追って変化、また増加している。個人（住民）、エスニック集団（マレー人、華人など）というローカルなアクターと植民地宗主国もしくは独立後の中央政府という構図から、次第に州政府、多国籍企業、地域協力機構（ASEAN）といった新たなローカル、リージョナル、グローバルなアクターの行為や意思が国境管理の論理に影響を及ぼし始める状況が生まれている。政策の歴史的推移におけるそれぞれの時期の主要なアクターについても、調査により把握することができた。これらの状況は国境地域によっても違いがある。

まず、マレーシア‐シンガポール国境に関して概略を述べる。マレーシア、シンガポールはイギリスからの独立後、一時期同じ国となったが、1965 年にシンガポールがそこから分離独立した。このことによって、マレーシア‐シンガポール間の国境が成立した。しかし、両国間、特にマレーシア南部に位置し、シンガポールと接するジョホール州とシンガポールとの間では、親族、友人などが国境を越えて居住しており、華人、マレー人などのエスニック・ネットワークが国境を越えて存在している。さらにこの地域は経済的にもジョホール州がシンガポールの後背地であるという関係が作られており、この関係は独立した後も変わるものではなかった。そのため、日常的な住民の移動を容易にする政策が、独立当初から採られることになった。両国国民に両国内（マレーシアは半島部マレーシア）のみ通行可能な限定パスポート(restricted passport)が発給されたことは象徴的な対応であった（現在は廃止）。

両国の経済分業関係は、ジョホール州からシンガポールへの越境通勤、シンガポールからジョホール州へのシンガポール人の買い物、娯楽目的の週末移動といった移動を容認する国境管理により維持されていった。両国の国家建設は比較的順調に進み、そのことにより、両国の経済的相互依存は深まり、相互利益の重要性がさらに高まっていった。

外資導入型の経済開発を進めていった両国は、グローバリゼーションの時代に即し、この相互依存関係と外資の引き付けをサブリージョン単位で構想していくようにもなる。ここにおいて、リージョナリゼーション、グローバリゼーションの影響が現れ始める。1980 年代末に発表された成長の三角地帯（Singapore-Johor-Riau Growth Triangle）構想はサブリージョンへの試みの先駆けであり、2006 年以降はジョホール州において、シンガポールとの関係が重要となるイスカンダル計画(Iskandar Project)が進行しつつある。特にイスカンダル計画については大規模な計画であり、企業、また通勤、通学する人々から、人の移動の自由がこれまで以上に求められる計画であると考えられ、今後の国境管理への影響について、経過が注目される。

その一方で、グローバリゼーションの時代においては、国境管理における安全保障、越境犯罪の防止がこれまで以上に重視されている。国際的な取り組みによる検討、指摘は、

こうした点への配慮を促している。両国は国境管理において、パスポートの電子化、コンピューター化と移動管理の技術革新を取り入れ、より近代的な国境管理システムを国境チェックポイントに導入し、頻繁に移動する者、両国にとって必要とされる人材が早く通過できる工夫を行うと同時に、技術に裏打ちされた選別を実施するに至っている。

一方、マレーシア‐タイ国境に関しては、やはり歴史的なエスニック集団の居住分布が、越境移動を考える上でも考慮しなければならない条件となっている。マレーシア北部州のクランタン州、クダー州、プルリス州、ペラ州がタイと接しているが、マレー半島の東海岸と西海岸では、政策の違いや歴史的な気質の違いから、越境移動、国境管理の状況について、特徴、性格が異なっている。

まず、東海岸のクランタン州は、タイ深南部と呼ばれ、ムスリム人口が 80%を超えるパタニ県、ヤラー県、ナラティワート県と国境を接しており、歴史的な親和性が高い。タイ側の国境地域は、圧倒的にムスリムが多く、パタニ・クランタンのマレー語方言が多く用いられ、ほぼムスリム世界としてとらえることができる。

2004 年からタイ深南部ではテロが激化しているが、居住者であるムスリムの移動は依然として頻繁に行われている。特にタクバイ‐コタ・バル間では渡船による日常的なムスリムの交流が盛んである。また、鉄道も通るスンガイコロでは免税店が建ち並び、日常的な買い物に訪れる越境者が見られる。しかし、通行者の数などは西海岸に比べると少なく、マレーシア側の道路開発、国境チェックポイント開発の規模は小さい。

一方、西海岸においては、歴史的にタイ語話者であるムスリムやタイ仏教徒が何世紀にもわたってクダー内陸部に南下していることもあり、タイ深南部の独立運動やテロのような暴力的傾向はタイ側において薄い。そのため、クダー州を中心として道路開発、国境チェックポイントの整備が進んでいる。特にアジア・ハイウェイの一部となっているマレーシアのブキッ・カユ・ヒタムからタイのサダオに抜ける国境チェックポイントは、大型トレーラーやタンクローリーの通行が多く、またマレーシアからのタイ旅行の観光バスなど大型車両の大動脈となっている。東海岸に比して、安全な越境ルートとして確立されているといえよう。

タイ国境地域のマレーシア国民には、やはりこの越境移動用に特化したパスポートが発給されており、国境地域から離れた州に転居した場合にはその権利を失うなど、歴史的事情を配慮した対応が行われている。免税地域では、国境地域に居住する人々をターゲットとした店も営業している。中央政府も現地の日常的な人の移動、それに伴う社会・経済的行為を追認する状況がある。

マレーシア‐タイの国境は、マレーシア‐シンガポールの国境と比べると、辺境の国境として位置づけることができ、国境を越える経済交流の進展も、それほどには進んでいない。タイ深南部の微妙な政治情勢が、国境管理においてもマレーシアとタイとの間で温度差を生んでいる。

しかし、マレーシア、タイにおける経済開発において、陸上輸送の確保は大きな意味を持っている。西海岸のブキッ・カユ・ヒタムの国境チェックポイントでは、比較的長距離を移動する国家にとって支障のない人びとをスムーズに通過させる仕組みが作られている。その一方で、日常的な住民の移動が主である国境チェックポイントでは、国境管理も現地の住民の移動状況を踏まえた形で行われている。マレーシア‐タイ国境の国境管理については、歴史を踏まえた越境関係、経済発展の波及状況、タイ深南部情勢をめぐる両国の国際関係の影響を、国境チェックポイントごとに把握し、国境管理政策、国境管理の実態の背景として踏まえる必要がある。

マレーシア‐タイ国境では、タイ深南部の紛争により、安全保障、テロ対策という点において、マレーシアの側に一定の警戒心がある点も注意しなければならない。その意味では、運動グループといったリージョナルおよびグローバルなアクターが、間接的に国境管理の方針に影響を与えているということも言えるであろう。

（2）越境道路網の拡充に伴う人の輸送ビジネスの発展と国境を越える人の「移動圏」の実証的把握

人の移動において、輸送インフラが果たす役割は大きい。日常的に容易な移動を維持するために、さらに経済開発の一環として、この 3 カ国においては道路開発が順調に進められていった。南北の高速道はシンガポール‐マレーシア‐タイをマレー半島西海岸沿いに結び、東西高速道は南北高速道から分岐してマレー半島の東海岸国境に向かい、タイに至る。高速道の建設とそこに接続する主要道路の開発は、国内の移動を容易にするばかりでなく、国境を越える人、モノの大量移動を可能にすることも踏まえて整備されていった。この過程については、主に政府関係資料の検討により、整理を行うことが可能となった。

シンガポール‐マレーシア‐タイ間の輸送において、鉄道は大きな比重を占めず、比較的順調な経済発展の下で、道路を中心とした輸送ビジネスが発展していった。一般の人びとにとって、移動といえば車による移動で

ある。モータリゼーションが進み、自家用車による移動は一般的になった。また、自家用車を持たない人びとや旅行者は、バス、タクシーによる越境移動を日常的に行っている。

庶民の足としてのバス、タクシーの輸送網を把握することは、人びとの「移動圏」を把握することにつながる。本研究において、「移動圏」とは、「自らが生活に利用するために実際に移動する範囲」という意味であり、生活圏よりも実際の移動範囲という意味で客観的に用いる。買い物、就労、親族、友人と会うなど日常的な生活上の目的のために頻繁に「移動する」範囲ということである。近代化に伴い、「移動圏」は当然拡大する傾向にある。この３カ国の一般の人たちにとって、陸路の「移動圏」は、主に車と道路によって規定されている。

越境バス、タクシーの輸送網は、シンガポール、ジョホール・バル、クアラ・ルンプル、ペナン、ハジャイなど、バス、タクシー発着の拠点となる都市を中心に、都市間を結ぶ形で設定されている。拠点都市に発着する越境バス路線の行き先、便数、バスの種類と乗車定員、越境タクシーの行き先、利用者のプロフィールを現地で調査することにより、越境する人の「移動圏」とこうしたバス、タクシーによる輸送密度を把握する上で実証的なデータを得た。

また、こうした輸送ビジネスは、合法的な越境を許可されている。越境可能なバスやタクシーの国境チェックポイントにおける越境手続きはシステム化されており、スムーズな越境が可能になっている。また、そのまま越境することが規制されている国境チェックポイントでは、国境を挟んで両側での輸送ビジネスが展開されている。合法的な越境の輸送手段に関するビジネス展開と各国政府によるビジネスへの対応という点でも、貴重な事例研究であるといえよう。

（３）人の「移動圏」の越境的実態と国家による制度的対応への着目

人の「移動圏」の越境的実態と移動の日常性は、国家に越境的な「移動圏」への制度的対応を迫るものである。単なる国境管理政策という移動の規制を越えて、本来国家の専権事項であると考えられる国民統合政策、国家利益の確保、国民への社会保障といった点においても、日常的越境移動の影響を組み込むといった事態が進行していることが見てとれる。

マレーシア－タイ国境においては、マレーシア国内の仏教徒であるタイ人コミュニティへの対応、南タイのマレー人イスラム教徒のマレーシアへの出稼ぎ移動への対応がそれにあたる。マレーシア－シンガポール国境においては、シンガポール人のジョホール州での買い物、サービスの利用に関するシンガポール政府およびマレーシア政府による対応があげられる。

興味深いのは、単に規制するというだけでなく、一見国家利益に反すると考えられる行為に対しても、それを追認する動きがあることである。この点で、本研究の対象であるタイ、マレーシア、シンガポールは、現実的な制度的対応を行っていると言える。そこには、究極的に国民の利益、国家の利益になる判断があるものと思われる。

この点で、国家の役割は弱体化しているのではなく、そもそも国家以外のさまざまなアクターの行為、越境移動の目的を取りこんで政策、制度的対応を行ってきた各国が、国境の壁を「低くする」ことと、国家の威信を維持するという基本線の維持の両立を図ろうとしているように考えられる。これが発展途上国ないしアジアの諸国家における特質であると言えるのかどうか、またこうした対応の効果については今後の検討を待たなければならないが、越境移動への国家の制度的対応の変容と国家の役割の検討の必要性、またその糸口となる事例が導き出されたことは、本研究の一つの成果である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計６件）

① 石井由香「国境管理政策と越境の持つ社会経済的意味―シンガポール・マレーシア国境の事例―」移民政策学会 2012 年度春季大会、2013 年 3 月 16 日、早稲田大学。
② 黒田景子「タイ＝マレーシア国境の越境者社会―クダー州内部地域のタイ語話者社会と沿岸政権としてのクダースルタン国―」日本マレーシア学会第 21 回研究大会、2012 年 12 月 15 日、立教大学。
③ 黒田景子「クダー内陸部のタイ寺院とタイ語話者の移住：境域の内陸世界」東南アジア学会関東例会、2012 年 10 月 27 日、東京外国語大学・本郷サテライト。
④ KURODA Keiko, “Thai-speaking Migrants of Inland Kedah,” International Workshop on Cultural Diversity in Southeast Asia (2), ILCAA Joint Research Project “Multi-disciplinary Study on Islam and Cultural Diversity in Southeast Asia, Le Meridien Kota Kinabalu, Kota Kinabalu, Malaysia, 2012 年 9 月 29 日.（招待講演）
⑤ KURODA Keiko, “Inlands Migrants:

Thai-speakers in Kedah,” International Seminar on Malaysian-Thai Studies (ISMATS) 2012, University Utara Malaysia, Sintok, Kedah, Malaysia, 2012年5月7日.（招待講演）

⑥ 石井由香「東南アジアにおける人の移動管理―ASEAN 地域統合と国家主権―」日本国際政治学会2010年度研究大会、札幌コンベンションセンター、2010年10月29日。

６．研究組織

(1)研究代表者

石井　由香（ISHII YUKA）

立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・教授

研究者番号：20319487

(2)研究分担者

黒田　景子（KURODA KEIKO）

鹿児島大学・法文学部・教授

研究者番号：20253916

(3)連携研究者　なし